

《株式会社エフエム東京 第408回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 26年 5 月 13 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(4名)

横 森 美 奈 子 委員長	内 館 牧 子 委員
渡 辺 貞 夫 委員	西 田 善 太 委員

◇欠席委員(2名)

香 山 リ カ 委員	秋 元 康 委員
------------	----------

◇社側出席者(10 名)

富木田 代表取締役会長  
千 代 代表取締役社長  
唐 島 専務取締役  
石 井 常務取締役  
山 科 常勤監査役  
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長  
村 上 執行役員 編成制作局長  
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー  
宮 野 編成制作局 編成制作部長  
松任谷 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(1 名)

平 常務取締役 営業局長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 30 分)

前略、倉本聰様～小山薫堂からの贈りもの  
3 月 23 日(日) 19:00～19:55 放送

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■「EARTH×HEART LIVE 2014」開催について

TOKYO FM をはじめとする JFN38 局は、1990 年よりスタートした毎年4月22日の「アースデー」に放送する地球環境保護を呼びかける世界中継コンサート、2011 年の東日本大震災を契機に、新たに「EARTH×HEART LIVE」というタイトルのもと、コンサートと世界中継を含む放送を実施しています。

25 年目を迎えた今年は去る 4 月 21 日(月)東京国際フォーラムにおいて、日本から ASIAN KUNG-FU GENERATION と STRAIGHTENER、韓国から Nell、台湾から Tizzy Bac という気鋭の実力派人気バンド 4 組が国境を越えて共演、アジアの環境問題を熱くメッセージしたライブを開催しました。

この4組は昨年 12 月に韓国、シンガポール、台湾を巡るライブサーキットを、現地の FM 局(ソウル:MBC、シンガポール:Y.E.S FM、台湾:UFO FM)と連携して実施、各国の若者たちに音楽の力でアース&ヒューマンコンシャスのメッセージを伝え、その集大成を日本で開催するというアジアプロジェクトを構築しました。

当日は、それぞれのアーティストの卓越した演奏と強いメッセージ性を込めたライブパフォーマンスに約 4,600 名の観衆がオープニングから大いに盛り上がりました。このライブの様子はアジアサーキットで連携した 3 か国の放送局で放送されるほか、全米のカレッジ FM ネットワーク、ABU(アジア太平洋放送連合)加盟局などで放送される予定ですが、今年はさらに初の試みとして世界最大のオンライン・ラジオプラットフォームである TuneIn Radio と連携しこのライブの英語版プログラムをアメリカ、イギリス、オーストラリアなどの英語圏へ配信します。

国内ではアースデーである 4 月 22 日(火)19:00~21:00 に、TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局で放送しました。



## ■第51回ギャラクシー賞に2番組が入賞

ギャラクシー賞は、放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰し、テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門に贈られるものです。2013年度に放送された番組について審査された「第51回ギャラクシー賞 ラジオ部門」で、8作品中2作品、当社制作の番組が選ばれました。

今回入賞したのは、今年3月11日(月)13:00～15:50に特別編成したTOKYO FM 特別番組「これからを見つめて～LOVE&HOPE 3年目の春だより～」、同じく3月23日(日)19:00～19:55、サンデースペシャル枠で放送した「前略、倉本聰様～小山薫堂からの贈りもの」です。

なお、他の入賞作品は、以下の通りでした。

赤江珠緒 たまむすび (TBS ラジオ&コミュニケーションズ)

途切れた119番～祐映(ゆうは)さんと救急の6分20秒～ (山形放送)

In My Life～介護の仕事と ビートルズと～ (北日本放送)

白神山地 世界自然遺産登録20周年記念番組「世界自然遺産 白神山地」  
(エフエム青森)

FMシアター「どこかで家族」 (日本放送協会)

ニッポン放送開局60周年記念ラジオドラマ「想像ラジオ」 (ニッポン放送)

**議題2：番組試聴（約30分）**

【番組名】 TOKYO FM サンデースペシャル

「前略、倉本聰様～小山薫堂からの贈りもの」

出演：小山薫堂、倉本聰 ナレーター：伊藤綾子

【放送日時】 3月23日（日） 19:00～19:55 放送

**【番組概要】**

アカデミー賞映画「おくりびと」の脚本家・小山薫堂が人生で初めて魅了されたのは、倉本聰の輝かしい作品群でした。そんな薫堂少年が脚本家となり、敬愛して止まない倉本聰と交流を持つようになったある日、小山のもとへ倉本聰から誕生日の手紙が届きます。小山はその御礼にと倉本聰を自分のふるさと天草への旅へと誘います。

空港の到着ゲートでふたりの脚本家は再会を果たします。青い海と、広い空に囲まれた天草。薫堂少年がかくれんぼをしていた祇園橋、古い商店街で営む昔ながらのたい焼き屋、海の天主堂・崎津教会、熊本唯一の離島・御所浦、そこに佇む民泊。

故郷の風景、優しい人々。小山が育ってきたそのありふれた日常の中で、「当たり前」の幸せを深く吸い込み、五感を研ぎ澄ませながら、脚本の神様・倉本聰はおのずと物語を紡ぎだす種を探していきます。

往復書簡で綴られる二人の心の交流、音や音楽が「豊かな想像力の源」という二人の会話、敬愛する師の前で少年に帰る小山、心づくしのサプライズに言葉をなくす倉本聰……一つ一つの場面を通じて人生の豊かさとは何かを提示し「創る」ということの原点を探っていきます。

**【委員の意見および社側説明】**

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○良い企画だ。よく倉本聰さんと小山薫堂さんの二人を引っ張り出してきたものだと思う。脚本を書く者にとって、倉本聰さん、橋田壽賀子さん、向田邦子さん、山田太一さん、市川森一さんは“神ファイブ”とされており、彼らに影響されてこの世界に足を踏み入れる人も多いし、彼らを超える存在はまだいないと思う。それだけすごい存在の一人である倉本さんを前に、薫堂さんが緊張して、饒舌になっているのが明らかにわかり、それが微笑ましかった。

1点考えるべき点は、他人の故郷を、他の人たちがどう自分に重ねて入り込めるかという点がものすごく難しいということ。いいところだろうとは思いますが、本人との重ね方が勝

負だ。テレビだと画が見えるからまだいいが、ナレーションで懸命にそれを伝えようと、本来言わなくていいところまで盛り込んでいた。現実には天草の良さは倉本さんには十分伝わったのだと思うが、一般人が聴いて面白いという域までには達していないのではないかと思った。最後のサプライズの場面は非常に良いので、そちらに比重を置いて、街歩きの部分は脚本としても工夫が必要だったのではないかと感じた。

○昔、テレビ番組のロケで九州一円を旅して、天草にも行ったことがある。天草の人たちの独特の佇まいを今も懐かしく思い出すことがあるが、薫堂さんがあその出身だということに驚いた。彼とは数か月前に対談し、非常にシャープな人という印象だが、あのどかな場所の出身だったとは。自然の中の生活で、彼の感性がいいところで磨かれたのかもしれない。

こういう番組は良いと思ったが、二人の会話が、番組のフレーム中でしゃべっているのに、何か話さなくてはどういう使命感でちょっと無理している感じもあった。往復書簡の部分はさすが文筆家同士なので素晴らしかった。

中に出てきた音楽も、フレーズに南の感じが出ており、天草の雰囲気を出していた。

○小山さんは50歳目前なのに少年のようで、甘え上手で人たらしなのが魅力だが、お返しに自分の故郷を見せるという自意識がよくわからなかった。

誕生日プレゼントのお礼なのに、倉本さんのストーリーを薫堂さんが追いかけていくのではなく、自分の領域に連れてくるというのが、話の成り立ちとして不思議だった。

結論として何を引き出そうとしたのか分からないままだった。

○北の田舎に住む人をわざわざ南に呼び、今までと違うものに触れてもらうことは、それは面白いお返しになるのではないかと私は感じた。

街歩きの部分を作るのは難しかったのではないかな？

■ひたすら収録して、とにかく量をとって、いいシーンを抜き出したという作り方をした。

○楽しんで聴いたが、倉本さんは天草に興味があったのだろうか？という点が少し疑問だった。一度行ってみたかったのか、北と南の対比なのか、どうして天草への招待がプレゼントになるのかという点にもう少し説明がほしかった。

本編は、新旧ビッグネームの会話は何を話していても聞き耳を立ててしまうというもので、興味深く聴けるものだった。小山さんのお仕事は多岐にわたっているが、人を喜ばせることをいつも考えていらして、そんな簡単なことではないが、最後の映画館のシーンで決めてくれたなという感じがかった。素晴らしいアイデアを持ち、実現できる方なのだということを実感した。ビッグネームの普通の会話というのは面白い。

■倉本さんは小山薫堂さんのことを可愛がっており、彼の故郷を見たいという動

機はあったので、その部分をもう少し演出すればよかったと思う。  
「ジャパモン」という小山さんのレギュラー番組での対談が話のきっかけだったので、  
今回の番組の中でその部分が少し足りなかったと思う。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「SPO☆LOVE」  
5月31日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、6月10日(火)に開催することを決めた。

以上